

2013.03.05：平成25年予算特別委員会第1分科会〔25年度予算〕（市民参画推進局） 本文

○分科員（上原みなみ） お疲れさまです。みんなの党、神戸市会議員を代表いたしまして、質問をさせていただきます。

プロジェクターは後ほど使わせていただきます。

まず最初に、市民課の窓口業務についてお伺いします。

戸籍や住民票、印鑑証明など、窓口での証明書発行件数として扱われるのは、平成23年度神戸市内全体で207万9,528件でした。証明書発行に係る人件費は、退職金や賞与を含め37億1,665万円、この人件費を証明書発行枚数で割ると、証明書1件当たりの人件費は1,787円です。神戸市が公表している事業・施設別行政コスト計算書では、区役所と市民課窓口業務について、市民1人当たりの市税投入額が1,751円と書かれてあります。しかし、証明書1件発行するのに人件費が幾らかかっているのかという観点でも公表する方が市民にとってわかりやすいと思いますが、いかがでしょうか。

一問一答でご質問させていただきます。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 今、委員おっしゃいましたとおり、事業・施設別のコスト計算書、これはこの際に行財政局の方で当該事業に要する人件費などを含めたコスト、それから受益者負担や一般財源の充当状況を明らかにすると、その中で市民1人当たりの市税がどれくらい投入されているかということで、各いろいろな事業についてなされたということで、今ご指摘のあった窓口業務についても、1人当たりの市税の投入額ということで算出をされたということでございます。委員おっしゃいましたとおり、例えば証明書1件発行するのにどれくらいのコストがかかっているかという観点での試算も当然可能でございます。ただ1件発行するのにどれだけかかっているかというもとのコストというのも、ある意味では非常に複雑なところがありまして、どんな費用を入れるのか、人件費も物件費もございまして、逆に手数料もちょうだいしておりますから、そのあたりの手数料の取り扱いをどうするかといった点でいろいろな数字が出てくる可能性もあるということで、それはいろいろな考え方に基づいて出し様があるのかなというふうに思っていますが、いずれにしてもご指摘のとおり、いろいろな形で市民の皆さんに、私も行っております業務

でかかっているコストなりがどういう状況なのかということはお知らせをしていく必要があると我々も考えてございます。

---

○分科員（上原みなみ） 公表されている市民化窓口業務全体のコストというのが 35 億 2,719 万円、これには出張所や連絡所のコストが入っていないとお聞きしております。その理由を聞くと、出張所では国民健康保険・年金・児童手当など、連絡所では防災・選挙・打ち合わせなど、証明書発行以外の業務も兼務しているため、証明書発行専属での人件費を出しにくいからだとの説明がありました。では、窓口業務以外の業務は勤務時間のうちのぐらいの割合を占めるのでしょうか。把握されているようでしたら、その根拠となるデータもお示しいただきたいと思えます。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 今、委員ご指摘の、特に連絡所等、少数でやってございますので、証明発行業務以外にもそういうまちづくり業務ですとか、あるいは防災に関する業務、あるいは選挙のときは選挙に関する業務をやってございます。ただ、おっしゃったように、これがどれぐらいの時間やってるかというのは、具体的に我々も持っているデータは実はございません。兼ねてるということだけでございまして、きちんとした何らかの客観的な数字が手元にあるわけではございません。

---

○分科員（上原みなみ） 今からプロジェクターを使わせていただきます。

こちらは、出張所や連絡所での 1 日当たりの証明書発行件数を職員数で割ったものです。西神中央出張所では、1 日に 98 件の証明書発行をしていて、これ、1 職員が 98 件ということですから、ほかと比べると、非常に効率がいいと思えます。しかし、そのほか 15 連絡所中 10 カ所が 1 日 5 枚以下の証明書発行、これは 1 人が 1 日 5 枚以下しか発行してないということです。区役所の平均は、1 職員 1 日 23 件ですから、西神中央出張と山田連絡所、伊川谷連絡所以外の 12 連絡所の窓口業務は、区役所と比較して非常に効率が悪いと言えます。このデータをごらんになって、どのように思われますか。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 委員おっしゃるとおり、確かにこういう連絡所というのは効率が悪いというのはそのとおりでございます。これは当然、私どもも想定といえますか、所管しております人口もございまして、地域の広さも含めてばらつきがある、あるいは区なり、西神のような非常に人口の集中した地域と異なるというのは考えていたとおりだということでございます。

---

○分科員（上原みなみ） 出張所や連絡の業務というのは、地元とのつながりが深いというふうにもお聞きしておりますけれども、しかしどのぐらいの割合その業務に費やしているのかということ一度もお示しただけしていません。これでは私も納得できませんし、市民に対しても説得力がなく、理解が得られないと思います。こういう状態をそのまま放置しているということはいかがなのでしょうか。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 今ご指摘のありました連絡所の体制、これも連絡所によって若干の違いがございまして、一番、今そこに有馬とか、大沢とか、少ないところといえますか、最低限の体制で我々組織、職員の配置をしておるとしてございまして、今嘱託の所長が1名と担当の嘱託の職員が2名という3名の体制だったと思います。もちろん実際の証明発行ということでは、非常に少ない状況というのはそのとおりでございますけれども、これ自体、非常に組織としては我々、最低限の体制ではないかなというふうに思っているところでございまして、効率性が悪いというのはおっしゃるとおりでございますけれども、やっぱり地域とのさまざまな関係、あるいはそれぞれの地域の行政の窓口としての機能というのは大きなものがあるということで、一定やむない面があるのではないかと。ただ、ご指摘のあったように、何らかの指標的なものも含めて、これでいいのかどうかということについて、どういうお示しの仕方ができるかというのは我々も研究する必要があるかなというふうに思っております。

---

○分科員（上原みなみ） このデータで見ると、1日に3人の職員が最低とおっしゃいますけども、3人の職員で1枚の住民票発行などしかしてないということなんですね。ちなみに、証明書1件当たりの人件費というのはこちらになります。区役所の平均が1,850円なんですけども、山田連絡所・伊川谷連絡所・押部谷連絡所・岩岡連絡所は区役所より低額になってはいますが、その4～5倍の人件費がかかっているところもありますし、また有馬や大沢の連絡所などは、1枚の住民票発行に人件費が1万円以上かかっているという計算になります。この点についてのご見解、そしてこのような状況が市民理解が得られているものなのか、2点お伺いします。

---

○大谷市民参画推進局長兼広報官 いろいろとご指摘いただいておりますけれども、基本的にまず前提といたしましてお話をさせていただきたいと思っておりますけれども、もともとの連絡所といいますのは、もう委員も十分ご存じだと思っておりますけれども、町村の神戸市への編入の際に、中で旧の町村役場の機能が一部を引き継ぐ形でやってきた面がございます。そういった意味で、そういう経過を経た上で今日に至っておるわけでございます。そういった意味では、地域の中で果たされている役割というのは、一定のそういう役割というのは、こういう証明書の発行ももちろんそうなんですけれども、それ以外の、例えばまちづくりとか、あるいは防災とか、いろんなそういう地域住民の皆さん方の、言うたら安心保険みたいな部分の機能も持っている部分もあるのではないかなというふうに思っておりますけれども、ただそうだからといって、非効率でもいいという話をしていくわけではございませんでして、そういった意味では、いろんな取り組みというのは全市的に行政改革を進めておるわけですから、そういった意味では、効率的な組織運営というのは目指していかないといけないわけですが、一方で、今の体制といいますのが所長と嘱託2名ということで、嘱託の体制で順次、そういった意味では、そういう負担軽減には努めてきておるわけですが、さらにそういった意味で、総論で申し上げますと、もう少しもっと何か、今、委員がご指摘なさっているような形での工夫というのができないかなということについては、これは十分私どもの方も、今後ともやっぱり十分検討していく必要があると思っておりますが、そのあたりについても、ぜひとも何とかご理解をちょうだいしたいというふうに思っております。

以上です。

---

○分科員（上原みなみ） 経緯については何度もお聞きしておりますけれども、やはり安心保険ということについては、人件費が高過ぎると思います。あと、市民理解が得られているかということについては、一度も広報、こういうことをされたことがないと思います。私は、出張所や連絡所のあり方というのは、市民の皆さんが決めることだと思っております。そのためにも、このような現状は広報すべきだと思いますけれども、いかがでしょうか。

---

○大谷市民参画推進局長兼広報官 そういった意味では、私ども、決めつけという形になるとあれなので、そういった意味でのおっしゃるようなお知らせといたしますか、情報公開ということについては、当然のことながらやっぱり進めていくべきだというふうに思います。

以上です。

---

○分科員（上原みなみ） 私がこの問題を調べてから半年以上たちます。その際、当局担当者から説明を受けましたけれども、半年たった今も、証明書発行以外の仕事についての分析ができていないことに対して問題があるとは思われませんか。

---

○大谷市民参画推進局長兼広報官 それぞれの連絡所によりまして、地域の事情とか、そういったことが当然あるでしょうから、画一的に何か分析してするというのは、なかなか私は難しい面があるんじゃないかというふうに思うわけですが、ただ、ですからそういう中でも実態を踏まえた上で、目指すべき方向といたしますか、何らかの、そういった意味で今おっしゃっておられるように、お知らせができてないんじゃないかというお話につきましても、そういった取り組みについてはもちろん検討していくべきだと思うんですけれど

も、ただ、そうだからといって、1つ1つの部分について出せるかといったら、そのところはなかなか、個別のやっぱり事情もあるでしょうから、出し方についても非常に難しい面があるんじゃないかなというふうに思うんですけども。

以上です。

---

○分科員（上原みなみ） 市民の皆さんの税金を使ってお仕事をされているんですから、早急に公表できる体制にされることを強く要望します。

次に、人件費という点では、1つに、職員定数をこれ以上削減できないのかという問題があります。1日の証明書発行件数が4～5件なのに対して、職員数が3人という連絡所をはじめ、特にこちらの連絡所の方では、このデータを見る限り効率が悪過ぎると言えます。出張所や連絡所の定数を見直すことも必要と考えますが、いかがでしょうか。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 先ほども申し上げましたとおり、確かに証明書で割った件数というのは、人件費というのは、こういう形で大きくばらつきもございます。ただ、職員の今の体制もともと、先ほど局長が申し上げましたとおり、正規の職員から嘱託職員にしまして、機能転換をして今になっているという状況も含めて、所長1名と嘱託2名という体制がこれ以上減らすことが可能なのかといったら、非常に難しいものがあるんじゃないかというふうに考えております。

---

○安藤北区長 今の答弁、ちょっと区長として補足をさせていただきたいんですけど、委員からご質問がありました、市民に対して説明はどうなってるのかということでございますけど、実は今のこの連絡所の体制、基本的には3名の体制が決まるときに、北区の方では区民まちづくり会議という、区民全体の代表者が出ておられて、区の重要な事項を審議する場がございますけれども、ここで約1年をかけて議論をいたしました。当時はたしか平成9年ごろだったと思いますけれども、震災後の、もう行財政改善をしないとイケないという流れの中で、連絡所のまず業務のあり方を地域に対して私の方から提案をさせてい

ただきました。それまで出張所機能で、ほぼ1つの小さな区役所並みの業務をやっているといったものを証明書発行ということに限らせていただきたい、今の連絡所機能に限らせていただきたいということで提案をさせていただく中で、最終的に今の嘱託の3名という体制が区民まちづくり会議の中です承いただいて決まったということでございます。こういった経過がございますので、私どもとしては、市民に説明を全くしていないということではなくして、市民に今の体制をご説明をして、その了解を得て今の体制でやっていると、そういう理解でございます。

---

○分科員（上原みなみ） その区民まちづくり会議というのは、区民の中の何割ぐらいが参加されているんでしょうか。

---

○安藤北区長 区民の各所の団体や地域の代表の方からなっております、北区の場合では約50人の委員の方が区民まちづくり会議委員としておられます。

---

○分科員（上原みなみ） わかりました。ただ、私のブログでもこういうデータを載せましたら、やはりかなりこういう連絡所や出張所は要らないというような、そういうご意見も多数ありました。ということは、やはりそれは区民の皆さん、区民だけでなく、市民の皆さんが納得しているということにはならないと思いますので、ぜひきちんと広報していただきたいと思います。

次に、人件費の2点目としまして、職員が公務員や嘱託職員でなければならないのかという問題があります。三井住友銀行の窓口担当のアルバイトの人件費は、自給850円から1,000円です。一方、嘱託職員といえば所長が500万円、それ以外は400万円という年収から計算すると、時給2,000円から2,500円となります。個人情報保護の観点から、住民票交付窓口と銀行窓口はどのように違うのでしょうか。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 個人情報保護という観点で違うのかということですが、扱っている中身はもちろん区役所の場合はより多くの個人情報を扱っているとは思っていますが、基本的には別に大きく変わるものではないと思っています。

---

○分科員（上原みなみ） 個人情報保護さえ守られれば、外部の方、公務員でなくてもできるのではないかというふうに私は考えております。例を申しますと、東京都足立区などでは、戸籍業務などのアウトソーシングを検討されているとお聞きしております。数年ごとに移動がある公務員よりも、長期間戸籍に携わる民間人というの方がプロが育ちやすいということから、戸籍のプロを育てようとしているんです。そういう取り組みもありますが、いかがでしょうか。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 これは平成18年ごろに、いわゆる市場化テストというのがずっと話題になったというのか、取り組みが各地でも行われたという時期がありました。そのときに、これは総務省の方でも、いわゆる地方公共団体の事務の整理というのをやっています、その際に、あるいは住民票、あるいは戸籍といった証明書等の発行についても、一律にすべてを民間に出す、あるいは市場化テストに出すということは無理ですよという話が出てまして、例えば一例を申し上げますと、請求とか申し出に対する交付・不交付の決定、あるいは請求届出内容に対する審査業務そのものについては、これは公務員はやるんだということで、これは総務省の通知ということで出されてた部分でございまして、逆に写しをお渡しするとか、本人確認することについては民間での取り扱いも十分可能だということで通知が出されたわけですが、なかなかそこまで切り分けずと、かえって非常に非常率になるということもありまして、なかなか取り扱うところがなかったというのがございます。ですから、委員が先ほどご指摘になった個人情報保護という観点に加えて、こういったいわゆる審査業務的な部分についての取り扱いも、一定のこういう法的なしほりもあるということをご理解いただければと思っています。

---

○分科員（上原みなみ） こちらは曜日別・時間別の混雑状況ということで、これは区役所のものだと思うんですけども、これを見ると、もう明らかにどの区役所でも混雑時間というのが11時から14時に限られているんですね。これから見て、朝8時半から夕方5時15分までという、そういう公務員の勤務ではなく、混雑時間の3時間だけのパートタイムという人員補充で十分可能なのではないかと思います、いかがでしょうか。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 確かにこういう傾向があるというのはおっしゃるとおりでございます、こういう曜日別のこと、これから特にこの3月、4月という時期は、またこれは全体として繁忙期だという時期というずれというものもございます。私もこういった繁忙期、あるいは1日の中でもこういう、特に昼間とかですね、昼休み時間とのかかわりというものもございます、そういった中で一部、今は特に任期付きの短時間の勤務職員の導入を試みたり、あるいはアルバイトの職員の配置をしたりといった形で工夫をしながら、繁忙期とそうじゃないときのバランスもとりながら今まで対応してきたということでございまして、ただ、これは一定の傾向だということでございますから、これがどこまで置きかえができるのかというあたりは、なかなか計量的には、我々もいざふたあけて人がいないということではいけませんので、どこまで対応するかということでございますが、一定の、すべてが置きかえられるわけではないということもご理解いただきたいと思います。

---

○分科員（上原みなみ） とにかく現状を広報していただいて、市民理解が得られる運営をお願いします。

次に、デートDV予防啓発についてお伺いします。

中学校・高校で行うデートDV予防啓発の研修を、平成24年度の9校から、平成25年度では27校と9倍に拡充することによって予算案が出されていますが、ぜひ全校で実施していただきたいと考えまして、デートDV予防啓発研修の必要性を説明させていただきます。

私も大学の講義を受講しまして、初めて何がデートDVに当たるのかということを知りました。意外と該当することに遭遇していても、問題意識を持たずに過ごしてしまってい

る人が多いのではないかという事例が多くて、特に恋愛経験が少ない中学・高校時代に被害を被害だと認識しておく必要があると強く感じたからです。

まず、こちらをごらんください。

皆さんの身近にも、このような事例があるのではないのでしょうか。絶えず携帯電話やメールで相手を監視し、すぐに返事をしないと怒る感情を持つ。恋人がほかの異性と仲よくすると怒り、その表現として無視をしたり、不機嫌になったり、時には壁をたたいたり、大声を出したりという暴力的恐怖感を与える。相手の行動を制限し、バイトや部活よりも自分を大事にすべきと主張し、気に食わないと説教をする。別れるなら死ぬと言っておどす。無理やり抱きついたり、キスしたりしても構わないと思っている。友人に2人の性的なことも簡単に話してしまっている。これは、平成23年度に実施された京都の大学生を対象としたデートDVに関する実態調査概要からデートDVにつながるゆがんだ恋愛感が推測できる項目を分析したものです。DV関係とは、一方の意思が貫徹する、つまり相手を思いどおりに支配することで、相手側が安全や自信・自由・自己決定・成長など主体性を剥奪されることです。このようなタイプの人とかかわった経験がある方というのは、それほど少なくないのではないのでしょうか。ただ大事なことは、このようなゆがんだ恋愛感を持つ人と遭遇した場合、その行為が自分への愛情なのだと勘違いし、相手の行為を肯定してしまうなどということがないよう、間違っているとと言える正しい知識と行動する勇気を持っていなければならないということです。また、同じ調査では、多くの項目で女性も加害的な行為をしてしまっているということ、つまり男性も被害を受けていることがわかりました。例えば、殴ったりけったりされたことがあるという被害は、男性が8.7%、女性は9.5%、一方で、殴ったりけったりしたことがあるという加害的な行為は、男性で5.3%、女性で9.1%だったそうです。もしかすると、殴ったりけったりしたことを忘れて、認識していない男性がいる可能性もあるんですけども、1つ言えるのは、デートDVの被害者は女性だけではないということです。そして、DVというのは必ずしも殴ったりけったりという行為を伴わなくても当てはまるということもきちんと理解しておく必要があります。

1つ、こちらの例をごらんください。

彼から、きょう会いたいと言われて、友達との約束がある、あしたじゃだめかなというメールを送ったことがある。あ、そう、おれより友達の方が大事なんだな、もういい。そのつれないメールにパニックになり、どうしてこんなふうになんか約束が入ったんだろうと自分を責める。だから、それ以来、できるだけスケジュールを入れないようにした。手帳は真っ白、学校もひとりで帰ることが多くなった。いつ彼から一緒に帰りたいと言われるかも

わからなかったし、断ったら破局間違いなしと思ったから。対等な関係なら、彼が冷たいメールを送ってきたら、先に予定が入っていたからごめんね、でも、そんなに怒らなくてもいいじゃないと言えます。そのように思ったことを平気で言えるのが健康的な関係です。しかし、DV関係だと、相手の機嫌を気にしてびくびくしてしまいます。そうすると、思ったことが言えません。そして、この事例の場合、この程度の返事でパニックになっていることがおかしいのです。スケジュールを真っ白にするところまでいっていますから、自分の人間関係を大事にできておらず、自分の成長に影響を与えています。つまりこれは対等ではなく、成長を邪魔するような不健康な関係、つまりDV的な関係となっていますが、本人は気づいていないと思われます。だからこそデートDVを正しく理解する教育が必要なんです。殴られていなくても、成長が邪魔されるような関係はDV関係だと若いうちに理解できるようにしておかないといけない、大人になったとき、つまり結婚後のDV関係につながる可能性も高くなると指摘されているのです。

以上、長々と述べさせていただきましたが、今回デートDVの研究、予防啓発活動をされている伊田広行先生から資料をお借りして、一部使わせていただきました。

神戸市に寄せられるDV相談が平成23年度で2,637件、うちデートDVに当たる交際中のDVというのは54件とお聞きしておりますが、正しいDV知識があれば、相談件数がふえるのではないかと思います。神戸市の中学・高校をあわせて158校です。年間27校の研修実施では、6年間でやっと全校を回ることができるという計算ですが、今年度までの研修校数が少なく、平成23年度、平成24年度で12校しか実施されていないことから、デートDV教育を受けないまま高校を卒業する若者が多く出てしまいます。そこでまずは、高校卒業までに1回はデートDV教育を受ける機会をつくるため、平成25年度に予定されている年間27校の研修を未実施の高校3年生に集中して行うべきと考えますが、いかがでしょうか。

---

○大谷市民参画推進局長兼広報官 デートDVにつきましては、重要性では私どもも同感でございます。今そういった意味では、今回の25年度予算につきましては、3倍ぐらいの予算を計上させていただいたところでして、27年度までに、私どもの今の考え方でいきましたら、中学・高校の3年間の中で、どこかで一応研修を受けていただくという形にしたいなという――高校といいましても、県立は含んでおりませんが、神戸市立の中学校・高校ということでございます。そういった形の計画でございますが、それを例えば、

その中で高校を優先的に、卒業されるともうあれなのでということで、高校を優先的にという考え方も当然あるんでしょうけれども、そういった中で、私どもだけの判断というわけにまいませんので、教育委員会のご協力をいただきながらという形になりますので。一方では、こういった私どもの講師派遣とは別に、教育委員会さんの方につきましてもかねてから、そういった意味では、そういうDV教育に取り組んでほしいということで、そういうDVDの配布をしまして、あるいは先生方にそういう研修をさせていただいて、そういった中で、日々のそういうカリキュラムの中でどこかでそういった啓発とか、研修みたいなことに取り組んでほしいという形は申し上げておまして、そういったことも私どもの講師派遣で行ってる件数とは別に、各学校の取り組みとして、そういう取り組みをやっていただいている学校も一部あるというふうに聞いてますので、そのあたりにつきましては、これから教育委員会さんともいろいろと協議をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

---

○分科員（上原みなみ） 神戸市立の高校だけではなくて、県立の高校も含めて、県と連携してこういう研修を行っていかうという取り組みはいかがでしょうか。考えていらっしゃらないですか。

---

○大谷市民参画推進局長兼広報官 県さんの場合につきましては、兵庫県独自の取り組みという形になりますので、基本的には想定になかったんですが、一度そういった機会があれば、話としてはしてみてもいいかなというふうに思っております。

以上です。

---

○分科員（上原みなみ） 高校卒業時にデートDV予防研修の履修率が100%になるように研修回数をふやした場合に、何回ぐらい研修を実施すればいいのか、またその費用というのがどれぐらいかかるのかというのを教えていただけますか。

---

○大谷市民参画推進局長兼広報官 例えば、私立とか県立高校を含んでの話ですか。

いずれにいたしましても、中学・高校の間では1回シャッフルがありますので、そういった意味では、仮に高校でそういった取り組みをさせていただくという形におきますと、3年間ですと、19校程度ありますので、100万円ぐらいの予算という形になると思います。

---

○分科員（上原みなみ） ありがとうございます。中学のときに1回受けて、そして高校のときにやっぱり1回受けるというような、そういうのがベストだと思うんです。それはやはり男女交際の低年齢化というのがありますので、ぜひ中学と、そして将来的には中学と高校で1回ずつ受けれるというような、そういう拡充を目指していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

---

○大谷市民参画推進局長兼広報官 拡充をしていくということについては共通の認識でございますが、実質どういう形でやるかにつきましては、教育委員会さんとか関係者との協議も当然でございますし、そういったことを踏まえた上での判断をさせていただきたいというふうに思っています。

---

○分科員（上原みなみ） 恋愛経験の少ない若者はだまされやすい、急速にのめり込みやすい、支配されやすいという、そういう特徴を持っています。大切な若者の未来が奪われないように、デートDV教育を今大人が対応すべき重要事項として取り組んでいただきたいと思います。

最後に、神戸市のキャラクター創設についてお伺いします。

人気のテレビCMでもご当地キャラクターが登場するものもあって、話題となっておりますけれども、ゆるキャラブームが盛り上がる中、兵庫県内キャラクター総選挙が実施され

るということで、2月28日から投票が始まっております。兵庫県ははばタン、相生市はど根性大根大ちゃんと、各自治体で有名なキャラクターが立候補する中、ワケトンなんですね。ワケトンは神戸市のキャラクターではないですよ。神戸市環境局でごみの分別を推進するためにつくられたキャラクターと認識しております。つまり、水道局でいうと一滴ちゃんと同じような、同等のもの、立場にあると思いますが、なぜ神戸市代表のキャラクターとしてこのワケトンを出されてるのか、とても疑問に思いました。ブームに乗って、神戸新聞が企画したキャラクター総選挙ではあっても、やはり神戸市としては代表して出しているわけですから、上位をとってほしいという思いがあります。もし最下位に近い結果だったら、とても不名誉なことだと思うんですね。神戸市の広報を所管する局として、どのようにお考えでしょうか。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 今ご指摘の神戸新聞の主催でなされておりますキャラクター総選挙ということで、これは各種それぞれ、今おっしゃいましたように、はばタンなり、しろまるひめなり、市のキャラクターをお持ちのところが登録をされてるんだらうと思うんですが、神戸市の方のキャラクターにつきましては、これは新聞社の方から主催者推薦という形でエントリーさせてほしいという要望に応じて、ワケトンが神戸市の代表みたいな形で出たという経緯のようでございます。ワケトンはおっしゃるとおり、これは環境局の方が自局の施策のためにつくったキャラクターでございますけれども、こういう独特の絵柄なり、あるいはワケトンという神戸弁の部分もございまして、非常に人気あるというのは事実でございまして、我々はこれが市のキャラクターというわけじゃございませんが、自然な形で人気が出るというのは、あえて拒否することでもないのかなというふうには思っております。

---

○分科員（上原みなみ） 先ほど主催者推薦というふうにおっしゃいましたけども、これは神戸市のキャラクターがないからですよ。たかがご当地キャラクター、されどご当地キャラクターなんです。公認でないにしても、お茶のCM出演に端を発して、ふなっしーが大人気となっていることをご存じだと思うんですけれども、千葉県船橋市の認知度アップに大いに貢献しています。所管局がどこかわからないなどとおっしゃらずに、ぜひ神戸

市としてのキャラクターがない状態を放置せずに、広報担当局として早急に神戸市のPRをするキャラクターを創設すべきではないかと思います。1点だけお願いします。

---

○清水市民参画推進局参画推進部長 神戸の場合、なかなか神戸市をぱっとイメージするような、例えば姫路のしろまるひめという非常にわかりやすいのがあるわけですが、神戸というのはいろんなイメージがあるというのは従来から言われているところでして、神戸のイメージというのはなかなか、いろんな魅力があるということだろうと思っておりますが、今の委員のご指摘も含めて、今後市のPR全般について参考にさせていただきたいと思っております。